

授 業 科 目 名	教育社会学概論(Sociology of Education)		
科 目 番 号	9200311	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	春季休業中	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	立石 慎治(tateishi.shinji.gw@u.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日 11:30-12:30		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)教育社会学の基本概念および理論の学習を通して、教育事象をみるための社会学的方法論を身につける。</p> <p>(2)学校教育がもつ二面性——今後の社会を形成する機能的側面と、これまでの社会の構成に与える原因の側面——について理解する。</p> <p>(3)現代日本のカリキュラム政策の動向、その政策的意図、および社会的帰結について理解する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>教育社会学は、教育に関わる社会事象を対象とし、社会学の視点と方法で研究する学問である。その対象は幅広く設定できるが、近代社会において教育現象が集約される場は主として学校である。そのため本講では学校という社会的制度を中心にとりあげながら、「全体社会と教育の関係」および「教育に持ち込まれる社会関係」について検討する。社会が教育を規定すると同時に、教育が社会を作り出しているという、両者の循環的關係を伝達することが、本講のテーマである。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回：教育社会学の視座と方法（テキスト第1章）</p> <p>第2回：教師・児童生徒・カリキュラム（テキスト第2章）</p> <p>第3回：教育機会と進路選択（テキスト第3章）</p> <p>第4回：高等教育（テキスト第4章）</p> <p>第5回：市民社会と学校教育の課題（テキスト第6章）</p> <p>第6回：ジェンダーと学校教育（テキスト第8章）</p> <p>第7回：子どもの問題の現在（事件や事故を中心に）（テキスト第9章）</p> <p>第8回：子どもの暮らし・遊び・学びの場としての地域及びその安全（独自教材を配信）</p> <p>第9回：子どものメディア利用と子どもの安全被害（テキスト第12章）</p> <p>第10回：教育社会学の課題と展望（テキスト第13章）</p> <p>* 本授業は、指定のテキストによる自習とオンデマンド教材の視聴による学習の二つによって展開する。オンデマンド教材は manaba を通じて配信される。</p> <p>開講期間(2/25-26)中は、Microsoft Teams 上でオンライン・オフィスアワー用のサイトが設置されるため、受講者は必要に応じて担当教員に質問することができる。なお、オフィスアワー用のサイトへのアクセスや担当教員への質問は成績に影響しない。そのため、自学自習のみで完結しても差し支えない。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>次の2つを期日までに提出することで成績が判定される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 各回に対応する章の末尾に記載された Exercise からランダムに出題される1題についてのミニレポート(400 字程度×10 題)(40%)。どれが出題されるかは、開講時に提示される。 各回で取り扱ったテーマに関連した教育事象を自由に一つ取り上げ、自身の見解を社会的な視点に立って記述するレポート(4,000 字程度)(60%) <p>提出先は manaba。提出期限は、2021 年 3 月 19 日(金) まで。</p>		
テ キ ス ト	飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』吉田武男監修、ミネルヴァ書房、2018 年。		
参 考 文 献	<p>柴野昌山・菊池城司・竹内洋編『教育社会学』有斐閣、1992 年。</p> <p>岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年。</p> <p>宮寺晃夫・平田諭治・岡本智周『学校教育と国民の形成』学文社、2012 年。</p>		

	日本教育社会学会編『教育社会学事典』丸善出版、2018年。
授業外における 学習方法	テキスト、参考文献、または、自身で探し当てた文献等を用いて予習、復習をすること。また、「社会が教育を規定すると同時に、教育が社会を作り出している」という見方が当てはまる身の回りの事象がないか、探してみること。
受講学生に望むこと	習ったことは使ってみる、学んだことは真似してみるのはとても大切なことです。この授業で触れた知識やものの見方を活用するという心の準備とともに受講してください。
備考	

授 業 科 目 名	教育社会学概論 (Sociology of Education)		
科 目 番 号	9200321	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	標 準 履 修 年 次	1 年次
実 施 学 期	通年	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	徳永智子 (tomokot@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	水曜 11:30-13		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 教育社会学の基本概念および理論の学習を通して、教育事象をみるための社会学的方法論を身につける。</p> <p>(2) 学校教育がもつ二面性——今後の社会を形成する機能的側面と、これまでの社会の構成にとつての原因的側面——について理解する。</p> <p>(3) 現代日本のカリキュラム政策の動向、その政策的意図、および社会的帰結について理解する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>教育社会学は、教育に関わる社会事象を対象とし、社会学の視点と方法で研究する学問である。その対象は幅広く設定できるが、近代社会において教育現象が集約される場合は主として学校である。そのため本講では学校という社会的制度を中心にとりあげながら、「全体社会と教育の関係」および「教育に持ち込まれる社会関係」について検討する。社会が教育を規定すると同時に、教育が社会を作り出しているという、両者の循環的關係を伝達することが、本講のテーマである。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回： 教育社会学の視座と方法</p> <p>第2回： 教師・児童生徒・カリキュラム</p> <p>第3回： 教育機会と進路選択</p> <p>第4回： 高等教育</p> <p>第5回： 市民社会と学校教育の課題</p> <p>第6回： ジェンダーと学校教育</p> <p>第7回： 子どもの問題の現在 (事件や事故を中心に)</p> <p>第8回： 子どもの暮らし・遊び・学びの場としての地域及びその安全</p> <p>第9回： 子どものメディア利用と子どもの安全被害</p> <p>第10回： 教育社会学の課題と展望</p> <p>定期試験</p>		
成 績 評 価 方 法	毎回の授業で提出するコメントシートの内容 (40%)、期末試験 (60%)		
テ キ ス ト	飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』吉田武男監修、ミネルヴァ書房、2018 年。		
参 考 文 献	<p>柴野昌山・菊池城司・竹内洋編『教育社会学』有斐閣、1992 年。</p> <p>岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 年。</p> <p>宮寺晃夫・平田諭治・岡本智周『学校教育と国民の形成』学文社、2012 年。</p> <p>日本教育社会学会編『教育社会学事典』丸善出版、2018 年。</p> <p>その他、必要な文献は教場で指示する。関連資料は随時配布する。</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	受講者には、テキスト等を使用し、十分な予習と復習を行うことを求める。		
受 講 学 生 に 望 む 事 項	初回に座席を指定するので、必ず出席してください。		
備 考			

実施方法：オンライン（オンデマンド型）

授 業 科 目 名	教育社会学概論(Sociology of Education)		
科 目 番 号	9200331	授 業 形 態	講義
単 位 数	1単位	標 準 履 修 年 次	1年次
実 施 学 期	秋 AB	曜 時 限	集中
対 象 学 群 ・ 学 類			
担 当 教 員 (連 絡 先)	徳永智子(tomokot@human.tsukuba.ac.jp)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜 11:30-13		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1)教育社会学の基本概念および理論の学習を通して、教育事象をみるための社会学的方法論を身につける。</p> <p>(2)学校教育がもつ二面性——今後の社会を形成する機能的側面と、これまでの社会の構成にとっての原因的側面——について理解する。</p> <p>(3)現代日本のカリキュラム政策の動向、その政策的意図、および社会的帰結について理解する。</p>		
授 業 の 概 要	<p>教育社会学は、教育に関わる社会事象を対象とし、社会学の視点と方法で研究する学問である。その対象は幅広く設定できるが、近代社会において教育現象が集約される場合は主として学校である。そのため本講では学校という社会的制度を中心にとりあげながら、「全体社会と教育の関係」および「教育に持ち込まれる社会関係」について検討する。社会が教育を規定すると同時に、教育が社会を作り出しているという、両者の循環的関係を伝達することが、本講のテーマである。</p>		
授 業 計 画	<p>第1回：教育社会学の視座と方法 第2回：教師・児童生徒・カリキュラム 第3回：教育機会と進路選択 第4回：高等教育 第5回：市民社会と学校教育の課題 第6回：ジェンダーと学校教育 第7回：子どもの問題の現在(事件や事故を中心に) 第8回：子どもの暮らし・遊び・学びの場としての地域及びその安全 第9回：子どものメディア利用と子どもの安全被害 第10回：教育社会学の課題と展望</p> <p>本授業は、オンデマンド(streamの動画視聴)と教科書による自習を組み合わせで進めます。動画視聴期間は、2020年12月4日(金)までです。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>毎回の授業後にmanaba上に提出する課題(各回400字程度)(30%)、最終レポート(70%) 2020年11月7日分の課題の締め切り:2020年11月20日(金)(manaba) 2020年11月21日分の課題の締め切り:2020年12月4日(金)(manaba) 最終レポートの締め切り:2020年12月18日(金)(manaba)</p>		
テ キ ス ト	<p>飯田浩之・岡本智周編『教育社会学』吉田武男監修、ミネルヴァ書房、2018年。 事前に必ず指定教科書を用意しておいてください。</p>		
参 考 文 献	<p>柴野昌山・菊池城司・竹内洋編『教育社会学』有斐閣、1992年。 岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011年。 宮寺晃夫・平田諭治・岡本智周『学校教育と国民の形成』学文社、2012年。 日本教育社会学会編『教育社会学事典』丸善出版、2018年。 その他、必要な文献は教場で指示する。関連資料は随時配布する。</p>		
授 業 外 に お け る 学 習 方 法	<p>受講者には、テキスト等を使用し、十分な予習と復習を行うことを求める。</p>		
受 講 学 生 に 望 む 事 項			
備 考			